

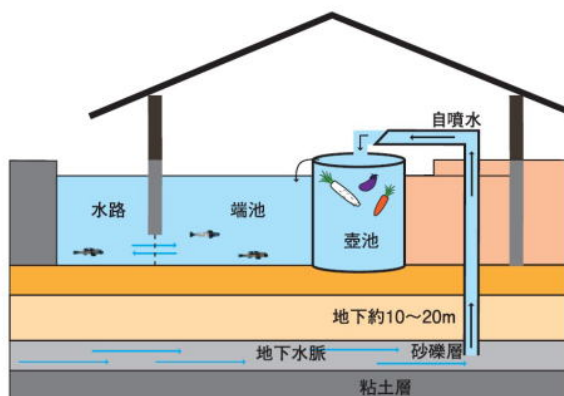
### 6. 3 滋賀県高島市針江区の水をテーマにした地域の取り組み

#### ①生水の郷「豊富な湧水を活かした生活システム」

水は人間の社会経済の活動になくてはならない資源であり、日常生活や社会経済活動において、水資源の持続的かつ安定的な利用は、自然資源の管理の最も基本的な事項の一つとなる。

滋賀県高島市針江地区では、古くから現在にいたるまで、地下水を生活用水として利用している。地下水を利用している家庭では、湧水を上水として利用するための取水口を設けているほか、水源から湧出して外の水路に流れている水を自宅内部に取り込んで食器を洗うために利用し、それをまた水路に排水している。このような洗い場を設ける場合、水源の上流部で利用された水を下流に住む者が利用することになるため、上流の家庭と下流の家庭できめ細かなルールが必要となる。

この集落においては「かばた」と呼ばれる地下水利用の施設が用いられ、これがコミュニケーションを成立させる要素となっており、現在でも、約 110 か所が使用されている。この「かばた」は、一般的に、上水として利用できる湧水をためておく「元池（もといけ）」、野菜や汚れた食器を洗う水をためておく「壺池（つぼいけ）」、さらに、「壺池」から流れ出た食品残渣を食べるコイ等の魚を泳がせて



おく「端池（はたいけ）」の 3 つの要素から成り立っている。地下から湧出した水は、この「元池」、「壺池」、「端池」の順に流れて行き、最後は外につながっている水路に排水。このような地下水の利用形態であるため、当該地区では、排水を汚さない暗黙のルールが互いの信頼の下で有効に働いている。「かばた」から排水される水質は安定しており、集落内の水路では、滋賀県版レッドリストで存続基盤が脆弱な種として希少種に区分されるバイカモを見ることができる。

#### ②地域が中心となつてのエコツアー

集落の水資源管理によって、この集落では、古くからある「かばた」を備えた家屋がならぶ文化的な景観が維持され注目されている。ただし、これらの家屋は日常生活を営む一般家庭のものであるにもかかわらず、この景観やシステムを見学しに多くの人が集落を訪れ、時には敷地に無断で入り込んだり、屋内の「かばた」をのぞき込むケースが相次いだ。そこで、この集落では、独自の見学ルールをつくり、住民自らがボランティアスタッフとなって、「かばた」の見学を訪れる人のガイドをする活動をはじめた。

このように、地域の生活に必要な自然資源について、その価値を見いだして理解し、自

らのルールで適切に管理することによって、ずっと利用しつづけようとする努力は、自然資源の持続的な活用の観点からは、最も基本的で重要な行動原理であると考えられることができる。

そこで環境文明 21 では、豊富な水資源を利用した生活システムさらには、この地域におけるエコツアーによる地域の取り組みについて調査するため、同地区の見学および、地域の人へのヒアリングを行った。

針江地区では古くから「川端（かばた）」を利用して、生活のあらゆる場面で地下水を利用しているため、排水を汚さないという暗黙のルールが互いの信頼のもとで有効に働いている。そして、この伝統的な集落の水資源管理によって、「かばた」を備えた家屋が並ぶ文化的な景観が維持されている。

しかし、この地域の人たちがその価値に気づいたのは、TV で放映されたことによる。最初は、TV を見た多くの人が集落を訪れ、敷地に無断で入り込み、屋内の「かばた」をのぞき込むようなケースが相次いだ。そのため、地元では委員会メンバーが中心となり、集落で見学のルールを作り、住民自らがボランティア団体を立ち上げ、見学を訪れる人のガイドをする活動をはじめた。ガイドをするうちに、自らの地域の価値に気づき、誇りが持てるようになったという。

エコツアーとしては、敷地内にある「かばた」を地元ガイドの案内で回り、静かな古民家で水の音を聞きながら地域の日常の暮らしを体験するというもの。但し、暮らしを体験することから、事前申込制をとり、ツアー時間も原則 3 回/日（食事時などは避ける）となっている。また、見学案内料金は一人当たり 1000 円で、ガイドには 1 時間当たり 500 円の地域通貨が支払われる。残った収入は地域の環境保全活動に利用されている。

この地域でのエコツアーの成功のポイントと効果は、次のような点である。

- ・地下水が地域全員の共有財産であるという認識が定着していることから、上流の家庭と下流の家庭とできめ細やかなコミュニケーション、住民同士のつながりが密だった
- ・住民同士のつながりが密だったため、エコツアーの実施に当たってもルール作りが容易だった
- ・小さな集落で歩いて回れるツアーが組みやすかった
- ・テレビで取り上げられたことが住民の意識の向上につながり、水資源を大切にする価値を改めて認識できた（外からの刺激で地域の人々がその価値に気づいた）
- ・この活動を通じて、地域の人（特に委員会、ボランティア）が地域に誇りを持てるようになった
- ・地域に存在する資源（暮らしの資源）を有効に活用しながら、その価値をさらに高める活動（ほかの様々な環境保全活動）が発展的に行えるようになった